

光村図書ウェブコンテンツのご案内 「ART BY STUDENTS 生徒作品ギャラリー」

光 村図書ウェブサイト上で、全国の中学校・高等学校の生徒作品をご覧いただける「ART BY STUDENTS 生徒作品ギャラリー」を公開しています。作品画像と合わせて、その作者である生徒の言葉もご覧いただけます。

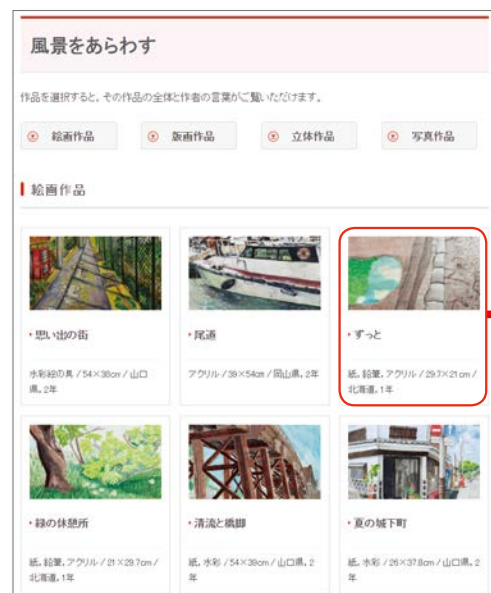
サイトトップ「おすすめコンテンツ」の「ART BY STUDENTS」のバナーをクリックすると、中学校のコンテンツへ進むことができます。授業の際の参考作品として、ぜひご活用ください。



トップページの
このバナーをクリック。



← こちらのQRコードからも
アクセスできます。



クリックすると…



中学校・高等学校
合わせて
約500点の作品を
掲載！

各生徒作品に
「作者の言葉」を掲載。
作品に込めた思いや
制作意図をご覧いただけます。

編集委員お気に入りの生徒作品
私のこの1点

中学校『美術』教科書の
編集委員の先生方9名が、
「立体作品」「絵画作品」
「デザイン・工芸作品」の
カテゴリごとに選んだ、
お気に入りの中学生作品も
併せてご紹介しています。



美術準備室 No.19
2021(令和3)年11月5日

発行人 ■ 吉田直樹
発行所 ■ 光村図書出版株式会社
〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9
電話：03-3493-2111
www.mitsumura-tosho.co.jp
E-mail: koho@mitsumura-tosho.co.jp
デザイン ■ Better Days(大久保裕文+深山貴世)
印刷所 ■ 梅田印刷株式会社

 光村図書

※「QRコード」は、株式会社デンソーウェブの登録商標です。
※本誌は、独立した出版物であり、Apple Inc. が認定、後援、その他承認したものではありません。

2021

美術準備室

つ く る ・ み る ・ 感 じ と る

第 19 号

光村図書

特集
**1人1台端末、
どう活用する？**

アトリエ訪問
日本画家
中島千波

作家の肖像
銅版画家
駒井哲郎

放課後ART
●イシノマキ アート
はい!スクール

この1点
「四季」
中野京子

本誌は、文部科学省による「教科書採択の
公正確保について」に基づき、(一社)教科
書協会が定めた「教科書発行者行動規範」
にのっとって配布しております。

アトリエ 訪問

原色を生かして鮮やかに描かれ、つやりと光るリンゴ。
日本画家・中島千波は四季折々の植物や生き物の姿を見つめ、
独自の世界観をもって表現し続けてきた。
画業50年を超え、今日も精力的に制作を続ける彼のアトリエを訪ねた。

撮影 永野雅子

第 19 回

中島千波

日本画家

都内の閑静な住宅街。そこに白い壁が美しい、3階建ての家がたたずんでいる。中島さんの住居兼アトリエだ。笑顔の中島さんに招かれてその2階へ上がると、明るく開けた空間が現れた。壁には海外のおもちゃやアフリカの仮面が飾られ、床のそこかしこには、絵皿や描きかけの作品が置かれていた。

——広くて明るいアトリエですね。

中島 広さは80畳くらいです。昼も夜も関係なく一定の光の下で描きたいので、ブラインドを締め切って蛍光灯の光で明るくしています。展覧会の会場と同じような光のかげんでね。床に絵皿や画材が置いてあるのは、僕がいつも床に座って描くから。絵を立てて描くと、途中で絵の具が垂れてきてしまうからね。

後ろの棚にずらっと並んでいるのは日本画の絵の具。天然の岩絵の具がほとんどだけど、イタリアの土絵の具や中国の墨なども持っています。どの絵の具を使うかは、絵を描く前に大体決まっていますね。

棚や床に置いてあるおもちゃは、メキシコやインドなどで買ってきたもの。道端でおじいさんやおばあさんが売っているようなものを買うことが多いかな。技術的に優れたものよりも、素朴なものにひかれます。お気に入りのおもちゃを、作品の中に登場させることもよくありますよ。——代表作「桜シリーズ」の大きな



「パッと見て、おもしろいと思ったらとりあえず買っておく」という海外のおもちゃ。

下絵が立てかけてありますね。

中島 桜はもう30年以上描き続けています。自分でもあきれくらいつつこく描いていますよ。毎年春に、各地にある桜の名木の開花に合わせて全国を回り、スケッチします。樹齢300年以上の大きな桜が多いかな。毎年同じ桜の木を描くわけですが、すごく美しく咲く年もあれば、咲かない年もある。コケが生えてきたり、嵐あって枝が折れてしまったりもする。人間と一緒に、だんだん形が変わってくるのがおもしろい。

いつも「本物の桜以上に見えればいい」と思って描きます。そのためには写真ではなく、実際の桜をさまざまな角度からよく見て、丁寧にデッサンして、自分の中で立体を平面に置き換えていく過程が大切です。数えきれないほどの桜の花びらを描いているときには、「面倒くさい」と思ってしまうこともあります(笑)。それでも手を抜かずに、一つ一つにリアリティをもたせて描いていきます。そうでないと見た人は感動しませんからね。

僕は自然を描くのが好きなんです。最近は火山のシリーズに取り組んでいます。最初は富士山ばかりを描いていましたが、世界中の火山地帯にある、それぞれの山の変化がおもしろいということに気づいてから、これまでにイタリアのシチリア島にあるエトナ山や、ロシアのカムチャツカ火山群、アメリカのマウント・レーニアなどに行きました。日本画で火山を体系的に描いている人はあまりいないかもしれない。一つのテーマをしつこく、しつこく描いていくのが好きです。

——高等学校の新版教科書『美術 1』(P.8～9)のために「アップル」という作品を制作していただきました。

しつこく、しつこく描いていく



作品「アップル」のために、枝がついたままのリンゴを色鉛筆で何度もスケッチしてから制作にとりかかった。

この作品を通して高校生に伝えたいことを聞かせてください。

中島 「生きているものをどう絵で表現していくか」ということを見せたいと思いました。そのために自分の生まれ故郷の長野の農園を訪れて、リンゴを持ち帰って、できるだけ新鮮な状態で描きました。それに、リンゴというのはスーパーで売っている、生徒にとって身近なものでしょう。だから、こういうものでも絵になるんだよということも伝えたかった。ピーマンでも、ネギでもいいわけですよ。身近にあるものを、どうやって世界観のある絵にするのか。僕が静物画を描くときにいつも考えていることが、この作品にもあらわれていると思っています。



「夢中になって一気に描き上げてしまう」という桜シリーズの下絵。



完成した新作「アップル」。

なかじま・ちなみ

1945年長野県生まれ。父は日本画家・中島清之。71年東京藝術大学大学院修了。92年には、出身地である長野県上高井郡小布施町に「おぶせミュージアム・中島千波館」が開館。2020年に日本橋三越本店にて、個展「画業50周年記念 中島千波 日本画展-桜花を謳う-」を開催。おもちゃと花をモチーフとした静物画のシリーズや、日本全国の桜の古木をテーマにしたシリーズなどでよく知られる。



【特集】

1人1台端末、 どう活用する？

GIGAスクール構想の実現に向け、端末の整備が急速に進んでいます。本特集では、端末を使った実践を紹介しながら、美術の授業での効果的な活用方法を探っていきます。

イラスト おおの麻里

Q1.

そもそも
GIGAスクール構想
とは何でしょうか。

A1. 1人1台の端末と、校内の通信ネットワークを整備し、個別最適な学びと協働的な学びのための教育ICT環境を実現することです。

GIGAスクール構想とは、2019年12月に文部科学省が発表した教育施策です。児童生徒に1人1台の端末を配布し、校内に高速大容量の通信ネットワークを整備することで、多様な子どもたちに最適化された創造性を育む教育の実現を目指しています。当初は2019年度から5年かけてICT環境を整備していく予定でした。しかし新型コロナウイルスの流行により、オンライン授業などが必要になったことで、急速に整備が進んでいます。

Q2.

どのような端末が
使われていますか。

A2. Chromebook、Windows端末、iPadと、全国でさまざまな端末が使われています。

2021年8月30日に文部科学省が発表した調査資料「端末の利活用状況等の実態調査(令和3年7月時点)」によると、全国の自治体に整備された端末はChrome OSが40.1%、Windowsが30.4%、iOSが29.0%でした。Chrome OSが搭載されたChromebookが、いちばん多く使われていることになりましたが、クラウド環境の整備も進んでいますので、機種にかかわらず積極的に活用していくことが重要です。

Q3.

美術の授業では、
端末を
どう活用すれば
よいですか。

A3. 表現、鑑賞どちらの場面でも活用できます。積極的に使ってみましょう。

制作の際に技法の動画を参照したり、作品を鑑賞する際に作者についてインターネットで調べたりするなど、さまざまな場面で活用することができます。具体的な活用方法は、P.6からの鼎談の中でも紹介されていますので、ご参照ください。

- 表現の授業で
 - ・作品の発想を広げるため、インターネットで資料を探す
 - ・アイデアスケッチを端末で描く
 - ・制作過程や作品を写真・動画に撮って記録する
 - ・教科書のQRコードから技法動画を視聴する
- 鑑賞の授業で
 - ・作品や作者についてインターネットで調べる
 - ・端末を使って、意見や感想を交流する
 - ・美術館のサイトなどで、作品の高精細画像を見て細部までじっくり鑑賞する
 - ・教科書のQRコードから、作品の音声ガイドを聴く

監修: 中川一史^{なかがわひとし} 放送大学教授

北海道生まれ。専門領域はメディア教育、情報教育。

文科省「GIGAスクール構想に基づく1人1台端末の円滑な利活用に関する調査協力者会議」委員を務めるほか、全国の学校のSTEAM教育、プログラミング教育、端末活用、情報活用能力育成の授業づくりの指導・助言などに関わっている。



Q4.

美術の授業に
おすすめの
アプリケーションや
ツールはありますか。

A4. まずは無料で使えるものから試してみましょう。

美術の授業で活用できる主なアプリケーションやツールを下の表にまとめました。【授業での活用例】を参考に、まずは無料のものから使ってみましょう。

	名称	概要／授業での活用例
	Google スライド	Googleが開発したプレゼンテーションツール。MicrosoftのPowerPointと同じように使える。 「共同編集」機能が付いているため、グループ活動の際も役立つ。 【授業での活用例】 ・鑑賞の授業などで、グループで話し合ったことを「共同編集」機能を使ってまとめさせる。 ・描画機能を使って、文様やピクトグラムなど単純な色や形のデザインを考えさせる。
	Google Jamboard	Googleが開発した電子ホワイトボード。実際のホワイトボードと同じように使え、ウェブから画像を取り込むこともできる。 【授業での活用例】 ・鑑賞の授業で、作品を見て感じたことを付箋に書き出して整理させる。 ・表現の授業で作品の発想を広げるため、思いついたことを付箋に書いて整理させたり、作品の参考になりそうな画像などを貼らせたりする。
	Google Arts & Culture	Googleが世界中の美術館や施設と協力し、提供しているサービス。数万点にもおよぶ美術作品の高解像度画像をウェブ上で閲覧できる。Google Classroomで作品を共有することもできる。 【授業での活用例】 ・授業で取り上げたい作品を共有し、高精細の画像で作品の細部までじっくりと鑑賞させる。 ・世界の美術館の内部をストリートビューで見ること、美術館へ行く擬似体験をさせる。
	Keynote	iPadに搭載されているプレゼンテーションアプリ。MicrosoftのPowerPointと同じように使える。 【授業での活用例】 ・描画機能を使って、文様やピクトグラムなど単純な色や形のデザインを考えさせる。 ・鑑賞の授業などで、グループごとに考えたことをまとめて発表させる。
	iMovie	iPadに搭載されている動画編集アプリ。 複数の動画をつなげたり、テロップや音楽を追加したりなどの編集作業が容易にできる。 【授業での活用例】 ・学校行事などで短い動画を制作する際に、動画を撮影・編集させる。
	ロイロノート・スクール	株式会社LoiLoが開発した双方向授業支援ツール(有料)。課題の作成、配布、提出、共有がスムーズに行える。フィルタリング機能も充実している。授業で使ったデータや学習記録はすべて容量無制限のクラウドに自動保存される。 【授業での活用例】 ・課題やワークシートを作成・配布し、提出させる。提出した課題は一覧で表示してクラス全体で共有することもできる。 ・「シンキングツール」機能を使って、作品の発想を広げさせる。
	MetaMoj i Classroom	株式会社MetaMoj iが開発した授業支援ツール(有料)。紙にペンで書くように手書きすることができる。また、生徒がノートに書いている内容をリアルタイムで把握することもできる。 【授業での活用例】 ・さまざまなペンツールを使ったり、画像を取り込んだりして、作品のアイデアスケッチをする。 ・鑑賞の授業などで、生徒が書き込んでいるワークシートにリアルタイムでコメントを返す。
	SKYMENU Cloud	Sky株式会社が開発した授業支援ツール(有料)。「ポジショニング」機能や「発表ノート」機能など、クラスでの意見交流や発表に役立つツールが用意されている。 【授業での活用例】 ・鑑賞の授業などで、グループで話し合ったことを「発表ノート」機能を使ってまとめさせる。 ・鑑賞の授業などで、「ポジショニング」機能を利用してクラス内で意見を交流する。

※上記のアイコンおよび名称は、Google LLC、Apple Inc.、株式会社LoiLo、株式会社MetaMoj i、Sky株式会社の商標です。

端末で深まる！美術の学び



つつみ よし あき
堤 祥晃
たかしま
滋賀県高島市立
安曇川中学校教諭

滋賀県生まれ。滋賀大学教育学部卒業後、2001年から滋賀県公立中学校の教諭を務め、2018年4月より現職。「第55回 教育美術・佐武賞」佳作賞を受賞。光村図書中学校『美術』教科書で取材・撮影協力。



さら しな ゆ き
更科結希
北海道教育大学附属
釧路義務教育学校
後期課程教諭

北海道生まれ。北海道教育大学卒業後、北海道釧路町の公立中学校教諭を経て、2012年4月より現職。北海道教育大学大学院修了。光村図書中学校『美術』教科書で取材・撮影協力。



すが ぬま きよし
菅沼 聖
山口情報芸術センター
[YCAM]
社会連携担当

愛知県生まれ。京都造形芸術大学、岐阜県立国際情報科学芸術アカデミーを卒業後、2009年から山口情報芸術センターに教育普及担当として勤務。光村図書中学校『美術』教科書の編集委員。

中学校で端末を使って多くの実践をされている堤先生と更科先生、そして文化施設でICTを活用した授業開発をされている菅沼先生に、美術の授業で端末をどう活用していくべきかお話を伺いました。

聞き手 光村図書出版 編集部

教師が積極的に使うことが大事

——全国的に端末の導入が急ピッチで進んでいます。先生方の学校では、いつから端末を使い始めましたか。

更科 私の学校では、2012年にiPadを40台導入したのが最初です。その後少しずつ台数を増やしていったのですが、一部の教科でしか使われていない状態が続いていました。それが大きく変化したのは2020年。コロナ禍で学校が臨時休業となり、急きょ、全教科でオンライン授業を行うこと

になりました。そこから教師の意識が変わり、以降すべての教科で毎時間端末を活用するようになりました。

堤 うちの学校では、2019年に生徒用としてiPadを70台、教師用として15台導入しました。当初は台数が少なかったのですが、取り扱いになっていましたが(笑)、2021年2月から生徒に1人1台配備され、4月から授業で積極的に活用しています。

菅沼 僕が勤める山口情報芸術センター(以下、YCAM ※1)のある山口市では、2021年度からChromebookが小中学生約1.5万人に配られました。現場

の先生方と話をしていると、急に端末の導入が進んで不安に思われている方も多いと感じます。更科先生、堤先生は導入当初、とまどいはなかったですか。

更科 最初はおそろおそろ端末を使わせていました。「生徒に使い方を教えなければ」「使用ルールを決めなければ」とガチガチになってしまって、生徒たちに思い切り使わせることができていなかったように思います。

堤 不安もありますが、今は過渡期なので、失敗してもいいから積極的に使ってみようと思っています。使わないと何もわからないですからね。以前小学校の図画工作の授業を見たとき、子どもたちが当たり前のように端末を使って作品を撮影してい

驚きました。教師にとって端末は「特別なもの」かもしれませんが、子どもたちにとっては「身近な道具」なんですよね。小学生の姿を見て、そのことを痛感したんです。だから、僕はどんどん授業で使っていこうと決めています。

更科 教師が積極的に活用するようになると、生徒たちものびのびと使うようになりますよね。今では、「先生、こんなアプリがあるよ」「このアプリをこう使ってみたら」と生徒から教えてもらうことも多くなりました。

意見を共有し、鑑賞をもっと深める

菅沼 YCAMでは以前からICTを活用した授業開発を行っています。これまではこちらから先生方へ働きかけることが多かったのですが、最近は先生方から声をかけていただくことが増えてきました。2021年度からは、山口市教育委員会とYCAMが連携した「やまぐち子ども未来型学習プロジェクト(※2)」がスタートし、子どもたちの情報活用能力を育むための授業を開発しているところです。なので、今日は端末を活用されている先生方のお話を伺えるのを、とても楽しみにしてきました。ふだん美術の授業でどのように端末を使っているのか教えていただけますか。

堤 例えば、「比べてみよう風神雷神」という、「風神雷神図屏風」を鑑賞する授業(右図参照)では、これまで紙のワークシートで行った活動を、すべて端末に置き換えてみまし

※1 山口情報芸術センター Yamaguchi Center for Arts and Media、通称「YCAM(ワイカム)」。山口県山口市にあるアートセンター。2003年の開館以来、メディアテクノロジーを用いた新しい表現の探求を軸に活動している。
※2 やまぐち子ども未来型学習プロジェクト 山口市教育委員会とYCAMが連携した先進教育プロジェクト。ICT機器の操作方法やメディアリテラシーの習得を働きかけるとともに、情報活用能力を育成する。

堤先生の授業「比べてみよう風神雷神」(1年)

全2時間／絵や彫刻など



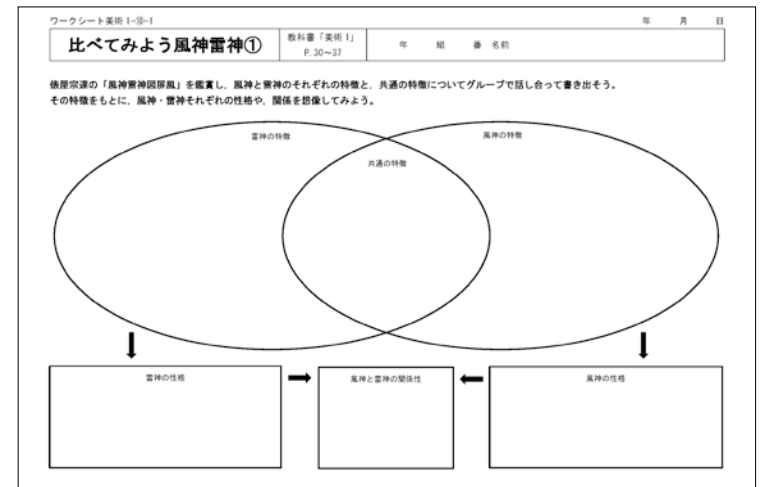
1 作品を鑑賞する

実物大の俵屋宗達の「風神雷神図屏風」を鑑賞し、発見したことや気づいたことを意見交換する。

2 自分の考えをまとめる

ベン図を記載したPDFのワークシートに、端末を使って、風神・雷神それぞれの特徴を入力する。

※このワークシートのPDFデータは、『中学校美術 学習指導書1』の付属DVDに収録。



3 全員で意見を共有する

書き込んだワークシートを「ロイロノート」に提出し、全員で共有。さまざまな意見に触れながら鑑賞を深める。



「ロイロノート」の画面。クラス全員のワークシートを一覧で表示することができます。

4 他の絵師が描いた「風神雷神図屏風」と比較鑑賞する

尾形光琳と酒井抱一が描いた「風神雷神図屏風」と比べて鑑賞し、ワークシートに自分の考えを入力。3作品のそれぞれのよさをクラス全員で共有する。

※それぞれの作品画像は、『中学校美術 学習指導書1』の付属DVDに収録。



すぐ
よかったのは、
クラス全員の意見を
共有できること。



堤

た。「風神雷神図屏風」を全員で鑑賞した後、端末を使ってPDFのワークシートにそれぞれ自分の考えを入力させます。そのワークシートを「ロイロノート」(P.5参照)というアプリケーションを使って全員で共有し、

鑑賞を深めていくという内容です。これまでの鑑賞の授業では、「全員の意見を共有する」って、なかなか難しかったんです。でも、端末を使うとすぐにクラス全員の意見が共有でき、教師がおもしろい意見を見つけて取り上げることも容易にできます。**更科** それは、端末を使う醍醐味ですよ。これまででは一人ずつ指名して発表させていましたが、端末を使うことで、一気に多様な意見に触れさせることができます。

堤 教師としては、ワークシートを印刷したり配布したりする手間がなくなったのも大きいですね。業務効率が格段に上がりました。

更科 すごく楽になりましたよね。生徒にカラーの鑑賞図版を見せたい

とき、これまでは、コストがかかるカラーコピーか、色が不鮮明なプロジェクターに映すしか方法がなかったのですが、端末を使うときれいな鑑賞図版をすぐに共有することができます。

菅沼 先生方はとても忙しいですから、業務の効率化は大きなメリットですね。また、端末の活用によってワークシートなどの学習記録がデータ化され、生徒一人一人の学びがより把握しやすくなりそうです。

何度も試行錯誤できる

——表現の授業では端末をどのように活用されていますか。

更科 制作過程を端末に記録させたり、アプリケーションやツールを使



「PowerPoint」を使ってピクトグラム アイデアスケッチをしている様子。拡大や縮小、移動などが容易にできるため、構図やバランスを学ぶのに適している。



「足下に注意しよう」というピクトグラムだが、人物の動きや足下の様子などが一目でわかりづらい。



相互鑑賞し、友達から受けたアドバイスをもとに改良。人物の動きなどがはっきり伝わるようになった。

って制作させたりしています。例えば、「新しい和の模様」の授業(P.8参照)では、iPadに入っている「Keynote」というプレゼンテーションツールを使って、模様を制作する授業を行いました。「PowerPoint」や「Googleスライド」もそうですが、プレゼンツールって円や四角などの単純な図形がたくさん用意されていて、すごく便利なんです。それらを組み合わせて、簡単に模様をつくることができます。また、模様を考えるときに大切な「形を単純化する」「形を組み合わせる」「工夫して配置する」といったポイントも、意識して行わせることができます。

菅沼 模様の制作は、プレゼンツールとの相性がすごくよさそうですね。

更科 端末を導入する前は小さなゴム板に模様を彫り「消しゴムはんこ」をつくっていたんです。はんこですから、うまく押せなかったり、色がかすれてしまったりすることも多く、生徒たちはそこに不満をもっていたようなんです。プレゼンツールを使うようになってからは、模様の組み合わせや配置、配色などを納得いくまで何度も試せるので、生徒たちは仕上がりに満足しているようです。また、授業時間も短縮でき、最後に完成作品を撮影するという活動を組み込むことができました。

堤 僕は、「PowerPoint」とタッチ

ペンを使ってピクトグラムを描く練習をさせたことがあります(左上写真)。更科先生の模様の授業と同様、ピクトグラムも形や色を単純化してあらわすことが大事なので、プレゼンツールとの相性はよかったですね。普段はなかなか手が動かない子でも意欲的に取り組んでいました。端末だとすぐにやり直しがきくので、生徒にとって描画のハードルがぐっと下がるようなんです。「鉛筆で描くのは緊張するけど、タッチペンだと安心して描ける」と話す生徒もいました。

菅沼 その生徒の言葉には、はっとさせられますね。絵が苦手な子でもフラットに取り組めるというのは、教育保障という視点からとても大事だと思います。

堤 どんな生徒でも臆せずに試行錯誤して制作できるのが、端末を使うことのよさですね。ただ、中には端末ではなく鉛筆で描きたいという生徒もいますので、その場合には、従来どおりスケッチブックに描かせました。自分に合った表現を選ぶことが大事だと思うので。

菅沼 生徒が紙とデジタルそれぞれのよさを知っていて、自分の表現方法に合わせて選べるようになるといいですね。

堤 ピクトグラムの授業では、最初につくった作品を撮影して、「ロイ

ロノート」を使って全員で共有し、お互いのよい点や改善点などを話し合わせました。その後「PowerPoint」を使った学習を経て、作品を改良させたのですが、比べてみると視認性が高くなっていて、格段によくなっているのがわかります(右上写真)。端末があると写真を撮って共有することが簡単にできるので、制作途中で相互鑑賞したり、完成作品と制作途中の作品を比べさせたりできて、とても便利です。

評価にも役立つ

更科 生徒の試行錯誤の様子を蓄積できるのも、端末を使うことのよさだと思います。これまでの作品のアイデアスケッチをスケッチブックに描かせていましたが、今では端末に記録させることが多くなりました。従来どおりスケッチブックに描きたいという生徒には、描いたスケッチの写真を撮って端末に保存させています。アイデアスケッチや制作途中の写真をデータで蓄積していくと、評価するときにもすごく役立つんです。「この子は、こんなに深く考えていたんだ」「ずいぶん試行錯誤していたんだ」など、気づかされることが多いです。

堤 生徒の自己評価にも役立ちますよね。僕は教師が考える評価と生徒の自己評価をなるべく一致させたい

更科先生の授業

「新しい和の模様」(1年)

全6時間／デザインや工芸など

1 「和の模様」について考える

世界と日本の模様を比べて、「和」の特徴について考える。端末を使って諸外国の模様を集め、教師が用意した「江戸小紋」の模様と比較。特徴を「ロイロノート」のカードにまとめ、交流する。



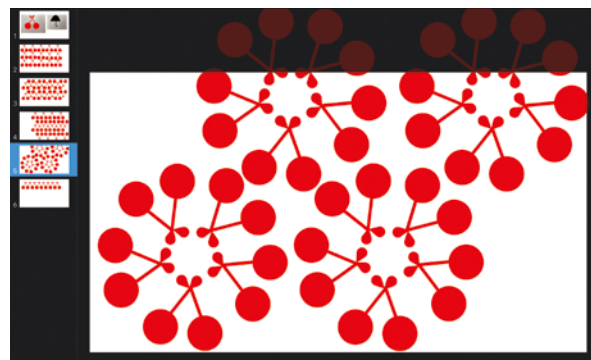
2 模様の構想を練る

自然や身近なものなどから発想を広げ、連続したパターンの構想を練る。「ロイロノート」にアイデアを提出し、他者のアイデアも参考にしながら進める。



3 模様を制作する

「Keynote」を使って模様を制作。色は2色までとし、基本図形をグループ化して形をつくる。できた形を複数組み合わせたり、角度を変えたりしてパターンを考える。



「Keynote」の画面。さくらんぼをもとに考えた形をつくり、さまざまな配置を試しているところ。

4 タンブラーに入れて撮影し、相互鑑賞する

制作した模様をプリントアウトしタンブラーに入れる。校内で端末を使って撮影し、その後互いの作品を鑑賞する。



と常々思っているんです。つまり、生徒が自身をきちんと評価できる力を育てたい。「絵を描くのが苦手な自分が、この授業でどれくらい描けるようになったのか」と客観的に自分を評価できるということは、美術の力がついているということですからね。端末に蓄積したデータを見れば、生徒が冷静に制作を振り返ることができ、自己評価の力を高められるのではと思っています。

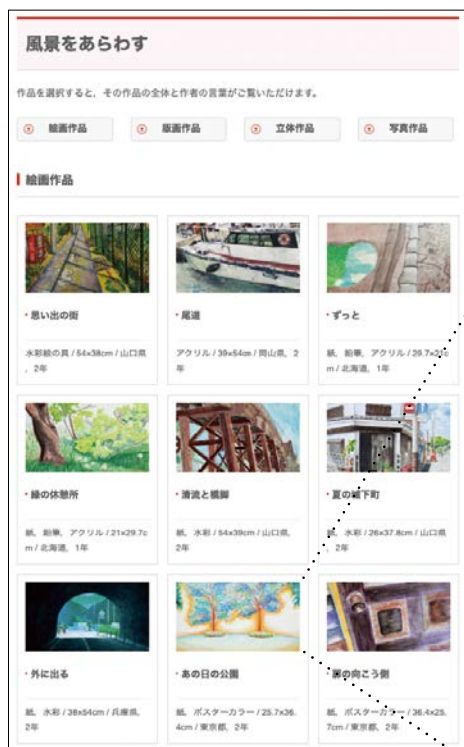
菅沼 端末の学習記録は、生徒自身が学ぶ上で非常に大事なものになるでしょうね。また先生がそれを参照することによって、よりパーソナライズ化した指導が可能になってくるのではないのでしょうか。先生と生徒との距離がより近づく気がします。

ネット検索は しっかり手順を踏んでから

——端末の活用のメリットについてお聞きしてきましたが、逆に課題に感じられていることはありますか。

更科 端末があると、すぐにネット検索して資料を手に入られるので、その資料から安易に作品を発想してしまう生徒もいます。資料から作品を発想することは悪いことではないのですが生徒の発想の幅を狭めていないか心配になるときがあって……。生徒自身が具体的に「こんな資料を参照したい!」と思えるまで、手順をしっかり踏ませてから、検索させないといけないなと感じています。

堤 ネット検索は、美術が苦手な生徒にとっては発想のきっかけになるし、美術が得意な生徒にとっては表現の幅を広げてくれるツールになります。でも中間層の生徒の中には、検索した画像に発想が引っ張られてしまうような子もいます。だから、つくりたい作品のイメージが生徒の



「風景をあらわす」作品一覧の画面

教科書のQRコンテンツ 「ART BY STUDENTS」



全国の中学生の作品
240点以上を、
「風景をあらわす」などの
八つのカテゴリに分けて掲載。
「作者の言葉」も見ることができる。



生徒が
試行錯誤しながら、
取り組んでいる
様子がよくわかる。



更科

中で十分に膨らんでから、資料を探させることが大事だと思います。

菅沼 たしかに、目の前の情報に引っ張られて、深い探求に至らないということはありそうですね。

堤 そういう生徒たちには前もって「検索した資料を参考にするのはいいけど、自分なりに考えたりアレンジしたりして、自分の表現の幅を広げることが大事だよ」と伝えるようにしています。教師がどういうところを評価するのか、しっかり示すことが大事だと思います。

教科書の QRコンテンツを使う

——教科書のQRコードからも、さまざまな資料にアクセスすることができます。特に先生方が使ってみたいQRコンテンツはありますか。

堤 全国の生徒作品が見られる「ART BY STUDENTS」というコンテンツがすごくいいなと思っています(上図参照)。僕は授業中に参考作品を見せることが多いのですが、

生徒たちは作家作品よりも中学生の作品に引きつけられます。このコンテンツは、作品の画像だけでなく「作者の言葉」が一緒に掲載されているのもいい。生徒には、作者が「どのように考えて制作したのか」というところを参考にしてほしいですね。
菅沼 クリックすると大きな作品画像が見られるのもいいですね。画像をどんどん拡大して見られるのも端末のよさ。作者の細かい工夫をしっかり見ることができます。

更科 私は「音声ガイド」がいいと

思います。「音声ガイド」は、教科書の作品を見ながら聞くことを想定していると思うのですが、あえて作品を見せず音声だけを聞かせて、イメージを膨らませてから、作品を鑑賞させるのもよさそうです。「風神雷神図屏風」の「音声ガイド」がそういう使い方に適していると思ったので、イヤホンを使って聞かせてみたいですね。そのほうが、作品の世界に没入できると思うので。

これからの端末活用

——最後に、今後どのように端末を活用していきたいか教えていただけますか。

更科 私たちは今、「従来の授業に端末を取り入れたら便利」という考え方で、端末を使っています。初めはそれでもいいのですが、今後は端末があることを前提として、新しい授業を構築していかなければならないと思います。そのために、教師が考える範囲で端末を使わせるのではなく、もっと生徒たちにゆだねる場面をつくっていく必要があると感じています。

堤 僕もなるべく自由に使わせたいと思っています。ある程度ルールは

必要かもしれないけれど、使用をあまり制限しないようにしたい。そうすると、きっと生徒たちはおもしろい使い方をしてくると思うんです。それを、教師がどれだけおもしろがれるかが大事じゃないでしょうか。
菅沼 はさみや鉛筆と同じく、端末も一つの道具として捉えていきたいですね。生徒がオーナーシップをきちんともち、端末を一つの道具として、使いこなせるように意識を変えていけるといいなと思います。

堤 それから、他教科と連携した授業に取り組みたいですね。他教科の資料や授業記録が、同じ端末上に残っているので、これからは生徒が端末を通して教科を横断できるようになっていくと思います。例えば「国語の授業で詩の創作をしたから、それをもとに作品をつくってみよう」「制作の参考に、社会科の資料を参照しよう」ということができたらしらおもしろいですね。

更科 私はプロジェクト型の授業を試してみたいです。プロジェクトの進行はすべて端末に記録させますが、それ以外は端末を使うかどうかも含め、生徒たちが自由に選んで進められるようにしたい。こういった学習



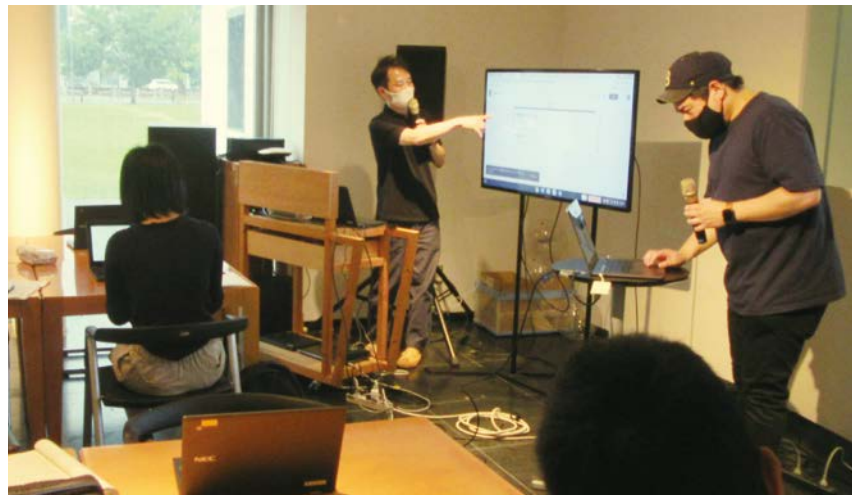
菅沼

課題を提示すれば、おもしろいプロジェクト型授業ができるか、今考えているところです。

菅沼 教科横断的な授業や、プロジェクト型の授業というのは、今注目されているSTEAM教育(※3)につながります。STEAM教育を推進するためにも、端末は欠かせないものになりそうですね。

端末の活用にあたっては、僕らのような地域の文化施設も先生方をバックアップしていかなければならないと思っています。「やまぐち子ども未来型学習プロジェクト」の取り組みの一つに、「100人の先生と考える未来の山口の授業」という先生方向けの研修があり、僕は講師として参加しています。そこでは、小中学校の先生方に端末の使い方をレクチャーしたり、未来型の授業を一緒に考えたりしています。こういった研修は今後ますます必要になってくると思うので、内容を進化させていきたいですね。文化施設の知見と学校の先生方のご経験を合わせて、これからの授業を一緒に考えていけたらいいなと思っています。

※3 STEAM教育
Science, Technology, Engineering, Art, Mathematics
等の各教科での学習を実社会での課題解決に生かしていくための教科横断的な教育。



2021年8月に行われた研修会「100人の先生と考える未来の山口の授業」の第1回の様子。右端が菅沼先生。山口市内の教職員が端末を使った授業のアイデアを出し合い、情報共有を行った。2021年は全5回の開催予定。

文化施設が
先生方を
バックアップしていく
ことも大事。

作家の肖像

第 19 回

このコーナーでは、
毎回一人の作家を取り上げ、
美術評論家の酒井忠康先生に、
お話をうかがいます。



Photo: 西口博田

駒井哲郎

1920-1976

こまいてつろう

1920年東京都生まれ。銅版画家。35年に日本エッチング研究所を主宰する西田武雄に師事し、銅版画を学び始める。42年東京美術学校(現 東京藝術大学)卒業。50年に春陽会賞、翌年に「束の間の幻影」が第1回サンパウロ・ビエンナーレで在聖日本人賞受賞。72年東京藝術大学教授。戦後日本における銅版画のパイオニアとして幅広く活躍した。76年11月、56歳で死去。

忘れられない姿

忘れられない人、というのは誰しもいるのではないのでしょうか。不思議なことに、それはごく近い人とは限りません。声を交わしたことすらない、ただ見かけただけなのに、強烈に脳に焼き付いている。ふとした時に、思い出す場面がある。

私にとって、駒井さんはまさにそんな人です。

駒井さんが舌癌^{がん}で亡くなる2か月前のこと。私が以前勤めていた神奈川県立近代美術館で、駒井さんが敬愛するパウル・クレーの企画展^(※1)が開かれました。駒井さんは闘病中にもかかわらず、わざわざ会場にいらっしゃったのです。

帰り際、顔面蒼白でやつれ果てた駒井さんが、中庭の壁に寄りかかっていた。偶然その姿を見かけた私は、「ああ、相当ご無理をされているんだな」と。そんな状態でも足を運んだことに、尋常ならぬ生き様を見た気がしました。

冷静な眼と深い思索

駒井さんは自著『白と黒の造形』(講談社)の中で「あまり情熱的には仕事をしたくない」と述べていますが、内側では爆発するほどの情熱をもっていたのではないかと思います。しかし、意志の強さだけでは、自己の芸術を究められないことも知っていました。

だからこそ徹底して自己を律し、常に冷静な眼を内面に向け、深い思索を重ねた。銅版画というのは、一度彫ってしまったら取り返しのつかない、忍耐力を必要とする綱渡りのような作業です。駒井さんは自著の

中で、創作の本質は「時間に対する一種の抵抗とも云える精神の緊張によって求められる」とも語っています。高度な理性と孤高な職人気質がうかがえます。

思慮深く、決して雄弁ではない方でしたが、親しい知人と酒を飲むと感情を露^{あらわ}にすることも多かったと聞きます。これも、理性を重んじる人柄の裏返しなのかもしれません。

束の間の幻影

駒井さんは、銅版画という目に見える形を通して、目に見えない心の内を表現した画家でした。瞼の裏に浮かぶ夢や幻想を、繊細な感性で銅版に刻みました。何とも言えない浮遊感の漂う「束の間の幻影」は代表作とされますが、駒井さんにとっては、全ての作品が「束の間の幻影」だったのではないのでしょうか。

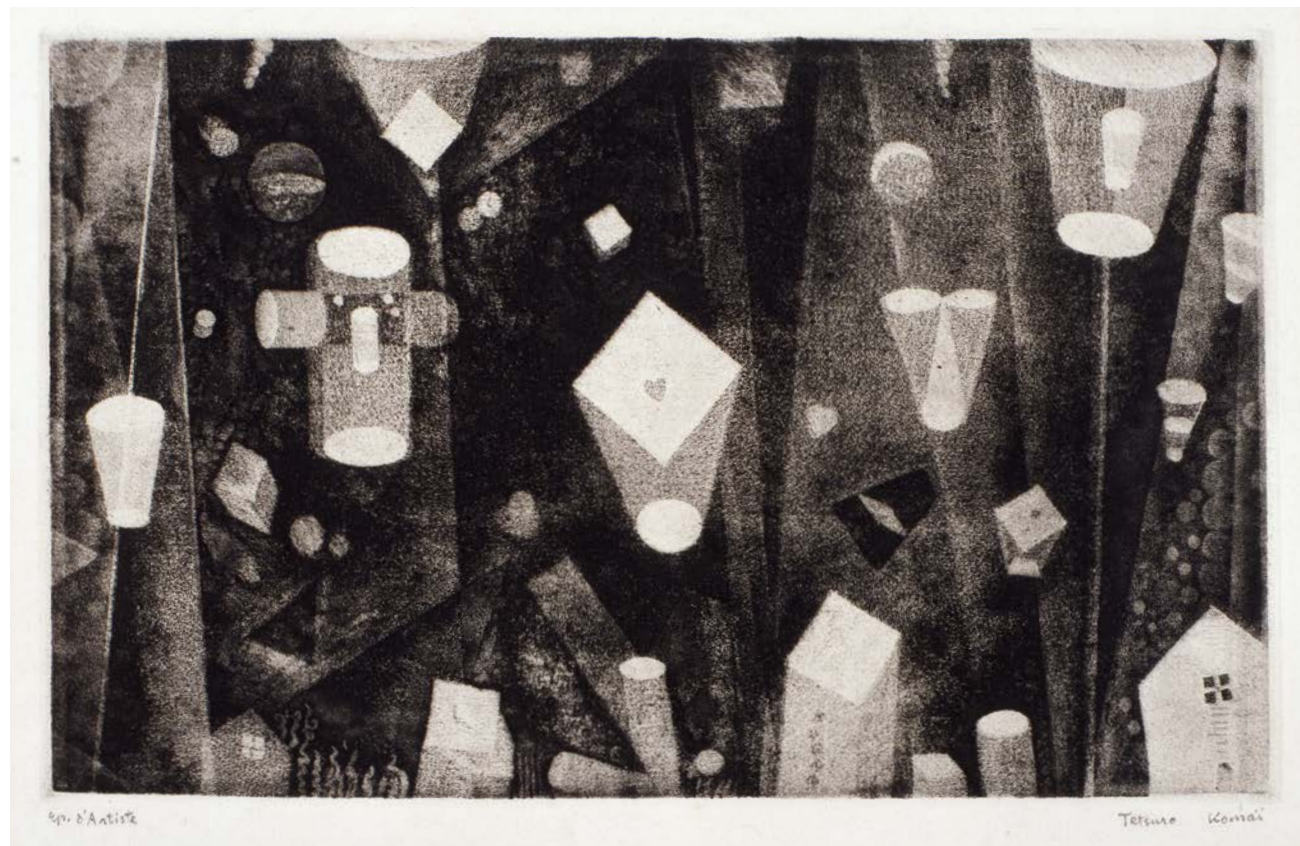
駒井さんの作品を音楽でたとえるなら、大規模なオーケストラではなく、小規模な室内楽といったところ。大きな美術館に展示するのではなく、手元で眺めて味わう小芸術といった印象を受けます。

少年期に銅版画に魅了された駒井さんは、その生涯を通して、ただ一筋に銅版と向き合いました。この天性の銅版画家が残した500点におよぶ作品が、現在、資生堂名誉会長の福原義春氏の寄贈により、世田谷美術館に収蔵されています。(談)

※1 パウル・クレー(1879-1940)
1976年9～10月、神奈川県立近代美術館にて「パウル・クレーとその友たち展」が開催された。

酒井 忠康

さかい・ただやす
世田谷美術館館長、美術評論家。
1941年北海道生まれ。慶應義塾大学卒業。
神奈川県立近代美術館館長を経て現職。
光村図書中学校『美術』代表著者。



「束の間の幻影」
サンドペーパーによるエッチング※一部ルーレット180×288mm 1951年
第1回サンパウロ・ビエンナーレに出品し、在聖日本人賞を受賞した作品。
本作について、自著『白と黒の造形』(講談社)で「ふとした瞬間、人の心を通り過ぎる、
なんとも云えない解放感を銅版画として視覚化して見たかったのです。」と述べている。



「黄色い家」

ディーブ・エッチ、アクアチント(1版多色) 211×161mm 1960年
白黒の銅版画を追究しつつも、1950年代末から60年代初頭にかけては多くの多色刷り作品も残した。



「3.肩の向うに隠れたその顔だけがどうしても見えない不思議な男の……」

エッチング、アクアチント163×119mm 1969年
埴谷雄高の小説『闇の中の黒い馬』(河出書房新書、1970年)の挿画のために制作された作品のうちの一つ。

(すべて世田谷美術館所蔵 福原義春コレクション)

教室を飛びだして

▼ イシノマキアート はい! スクール

宮城県石巻地域で数年ごとに開催されている総合芸術祭「リボンアート・フェスティバル」。
それに合わせて、地元の中高生がさまざまなアーティストと交流したり、
身近なアート拠点を巡ったりして、芸術に関する知識の輪を広げています。
その取り組みをご紹介します。

校舎は街全体

宮城県石巻地域で2021年、さまざまな芸術家と交流したり、作品を鑑賞したりして、中高生に教室外での学びの機会を提供する「イシノマキアート はい! スクール」が“開校”した。コロナ禍で活動が制限される中、オンラインを活用するなどして、幅広く活動を展開している。

運営の母体となるのは、アート・音楽・食の総合芸術祭「リボンアート・フェスティバル(RAF)」を主催する一般社団法人。RAFは、東日本大震災で被災した宮城県石巻地域を主な舞台に、2017年から開催されてきた。

芸術家と生徒が交流

「イシノマキアート はい! スクール」は、2019年の第2回RAF終了後、出展作家と運営スタッフの間で「地域の学生ともっと接点を持てないか」という話が持ち上がったことでスタートした。

2021年1月から3月にかけてキックオフイベントが行われ、さまざまなプログラムを実施。街歩きイベ

ントでは、参加者たちが地域の建築事務所やデザイン事務所、ギャラリーなどを訪ね歩き、活動内容や創作の姿勢を聞いた。参加した中学生は「石巻にはすてきな人や場所があって、震災後に移住した人もたくさんいることを知った」と、地域の魅力を再発見できた様子だった。

そのほか、オタク文化を取り入れた型破りなパフォーマンスで知られる二階堂瞳子さんの講演会(写真2)や、高級車を石焼き芋販売車に改造して走らせる大阪市のアートユニット「Yotta(ヨタ)」のオンライン講義なども行われた。

3月には「Yotta」の石焼き芋販売車が実際に石巻を訪れ(写真1)、有志の市民と交流。その後、オンラインで振り返りトークイベントが催され、参加者からは「最近では街で怪しいものを見る機会も減ったからなのか、石焼き芋販売車を見かけても無視する人が多かったように見えた」「非日常的なもの、常識的なものへの反応を考えるきっかけにもなった」などの感想が挙がった。

2021年8月には第3回RAFが開幕し、「イシノマキアート はい! ス

クール」との連動も模索された。美術作家の廣瀬智央さんが手がけた、空間いっぱいに植物のミントを展示した現代アート作品を、参加者がパソコンの画面を通して鑑賞する試みなどもあった(写真3)。

モヤモヤと向き合う

イベントのほかに、芸術に関する知識を深められるよう、市内の貸本施設「石巻まちの本棚」に専用スペースを常設し(写真4)、芸術関連の書籍や図録を並べている。また、中高生たちが目的を定めずに語り合う「オンライン談話室」も不定期で開催しており、コロナ禍で話す機会が減る中、貴重な場となっている。

活動の根底にあるのは「モヤモヤと向き合う」こと。運営事務局の志村春海さんは、「日常で疑問に思うことがあっても、周囲の反応を気にしてしまい、なかなか言いづらいこともある。学校以外の場所でも、そういった疑問やモヤモヤをおもしろがってくれる人がいることを知ってほしい」と話している。

イシノマキアート はい! スクール
<https://www.ishinomakiarthaischool.com/>



放課後 第 19 回 A R T

- 1／2021年3月、「Yotta」の石焼き芋販売車が石巻を訪れ、有志の市民と交流した。
- 2／2021年2月に開かれた二階堂瞳子さんの講演会。
- 3／2021年8月、廣瀬智央さんが手がけたミントの作品展示をオンラインで鑑賞する様子。
- 4／「石巻まちの本棚」に設けられた「イシノマキアート はい! スクール」の専用書架。

四季

ジュゼッペ・アルチンボルド



春

板、油彩 66×50cm 1563年
王立サン・フェルナンド美術アカデミー美術館蔵
(スペイン)

※中学校教科書「美術2・3」P.21に掲載

絵画を読み解く楽しさ

ありとあらゆる絵画表現に慣れてしまった現代日本人は、アルチンボルドの「寄せ絵」を見てもあまり驚かないかもしれない。

だが、彼の生きた大航海時代は、人々の関心が広い世界へ向けられ、珍奇な物への知識欲と所有欲が猛然

と沸き起こった時代だった。王侯貴族は個人の動物園や植物園を作り、富裕層の間では「驚異の部屋」と呼ばれるコレクション・ルームが大流行した。

アルチンボルドは、神聖ローマ帝国皇帝三代に仕えた宮廷画家である。皇帝や宮廷人たちの伝統的肖像画も手がけたが、彼の本領は植物や動物

で人体を構成するという斬新な手法と、緻密で正確な描写力にあった。

代表作「四季」は春夏秋冬の4作から成り、制作にあたっては皇帝の植物園へ自由に入出入りしてスケッチを許された。つまりこれらに描かれた植物は、皇帝コレクションの充実ぶりをも世に知らしめるものなのだ。「春」を見てみよう。

ここには何と 80 種類もの草花が描き込まれ、春の擬人像を形成している。もちろん画家はふざけているわけでも、笑わせようとしているわけでもない。草花の巧妙な組み合わせで観る者の讃嘆を誘い、且つ正確な描写によって図鑑としての役目も担おうとした。宮廷人たちは華やかで意表を突く画面に酔うとともに、植物名をあてる謎ときの遊びをも満喫したのであろう。

画面右上、白百合が帽子の羽飾りにみたてられている。肌は各種の花びら、目はパンジー、頬は薔薇、歯はスズラン。顔が花に埋もれているのではなく、花が集まって顔になった。耳はアジア産のシャクヤク。画面左上にはトルコ産のチューリップも見える。遠い異国から輸入した種子を皇帝の植物園が見事に花咲かせ、且つ改良を加えたことまで伝える。

絵は感じればいい——我々はそう習ってきたが、近代以前の西洋絵画はもっぱら知的階級のものであり、必ず意味と意図があった。それを理解できるようになれば、絵画鑑賞はもっと楽しくなるだろう。

北海道生まれ。
早稲田大学大学院修士課程修了。
作家、ドイツ文学者、西洋文化史家、翻訳家。
西洋の歴史や芸術に関する雑誌連載、書籍などの執筆のほか、講演、テレビ出演など幅広く活躍。
著書に『怖い絵』シリーズ(角川文庫)、
『名画の謎』シリーズ(文藝春秋)、
『怖いへんないきものの絵』(幻冬舎)など。
2017年「怖い絵展」監修。

中野京子
なかの・きょうこ



夏

板、油彩 67×50.8cm 1563年
ウィーン美術史美術館蔵
(オーストリア)



秋

キャンバス、油彩 76×63.5cm 1573年
ルーヴル美術館蔵
(フランス)



冬

板、油彩 66.6×50.5cm 1563年
ウィーン美術史美術館蔵
(オーストリア)